

# 関宿城 と大名

(せきやどじょうと  
だいみょう)



大師典八十八箇所  
寺郷路方角大穀図  
(昌福寺所蔵)

「大師典八十八箇所寺郷路方角大穀図(だいしてんはちじゅうはっかしよじごうろほうぐくだいこくず)」は、利根川・江戸川の分岐点にある関宿とその周辺の地域の「猿島新四国八十八箇所霊場」を色彩豊かに図示したものですが、同時に江戸時代後期の関宿城下町や同地が物流拠点として発展していた様子を興味深く伝えています。

当時、物資移送における河川舟運(しゅううん)の役割はたいへん大きく、とくに利根川では上流域からの諸荷物、銚子口から利根川を遡ってくる蝦夷(えぞ)・東北地方の諸荷物、さらには鬼怒川沿い北関東の諸荷物が集り、利根川から江戸川へ、そして江戸へと移送されていました。利根川から江戸川への入り口にあった関宿には荷物の積み替え、移送手段の提供に関わる河岸(かし)(内河岸・向河岸・向下河岸)や、舟荷物・旅人を改める関所(寛永8年設置)が設けられていました。

物流や軍事的な拠点としての発展は、すでに中世段階から見られ、戦国期には武将などの配置も確認されますが、天正18年(1590)の徳川家康の関東移封、慶長8年(1603)の江戸幕府の成立により、関宿は有力譜代大名の居城として整備されることになります。大名には松平(久松)家、松平(能見)家、小笠原家、北条家、板倉家、牧野家、久世家があり、牧野・久世家の場合は一度転出した後に再度転入しています。(関宿藩大名一覧参照)

各大名家が関宿を居城とした期間は、大名家によって異なりますが、江戸時代前期は目まぐるしく交代するものの、宝永2年(1705)の久世家入封以降は異動がなくなります。大名が支配した領地は高2万石から5万8000石余と幅があり、増減に伴い藩領域は拡大・縮小することになります。所領の所在は、関宿周辺や利根川沿いなどに多く見られ、一部が福島県・栃木県・大阪府などに広がりました。

関宿城藩主が幕府の要職(寺社奉行・老中など)を勤める点も大きな特徴です。江戸周辺の譜代大名に共通しますが、外様大名などには見られぬ大きな違いです。

近代となると城や城下の町々は、利根川改修工事によって次第に消失し、現在では所在地すら曖昧な状況といえます。

平成7年(1995)、関宿城跡の近隣敷地に天守閣を備えた千葉県立関宿城博物館が設立され、関宿藩や利根川に関する展示を行っています。

### 関宿城埋門(うずめもん)

城の南側にあった四足門(よつあしもん)を移設したもので、戦の時には、埋めて敵の進入を防ぐ門だとも言われています。(東高野 94)



### 関宿城跡

本丸跡に石碑が建立されています。(市指定史跡)



### 関宿藩大名一覧

大名	支配高	関宿藩主就任	幕府職名
松平因幡守康元(久松)	2万石	天正 18年(1590)	
松平甲斐守忠良(久松)	4万石	慶長 8年(1603)	
松平大隅守重勝(能見)	2万6000石	元和 3年(1617)12月	
小笠原左衛門佐政信	2万2700石	元和 5年(1619)10月20日	
小笠原土佐守貞信	2万2700石	寛永 17年(1640)9月14日	
北条出羽守氏重	2万石	寛永 17年(1640)9月28日	
牧野豊前守信成	1万7000石	正保 元年(1644)3月18日	京都所司代
牧野佐渡守親成	1万7000石	正保 4年(1647)11月26日	
板倉周防守重宗	5万石	明暦 2年(1656)8月15日	
板倉阿波守重郷	5万石	明暦 3年(1657)3月23日	寺社奉行
板倉隠岐守重常	4万5000石	寛文 2年(1662)2月18日	
久世大和守広之	5万石	寛文 9年(1669)6月25日	老中
久世大和守重之	5万石	延宝 7年(1679)8月6日	奏者番
牧野備後守成貞	5万3000石	天和 3年(1683)9月2日	側用人
牧野備前守成春	7万3000石	元禄 8年(1695)11月29日	
久世大和守重之	5万石	宝永 2年(1705)10月31日	老中
久世讃岐守暉之	5万8000石	享保 5年(1720)8月12日	
久世大和守広明	5万8000石	寛延 元年(1748)8月22日	老中
久世大和守広誉	5万8000石	天明 5年(1785)3月10日	
久世長門守広運	5万8000石	文化 14年(1817)11月	
久世大和守広周	5万8000石	天保 元年(1830)10月	老中
久世隠岐守広文	4万8000石	文久 2年(1862)8月	
久世広業	4万3000石	明治 元年(1868)12月	

(注) 支配高は藩主着任時の高。幕府職名は藩主時のもっとも上位の役職。